



N P O 法人国際文化芸術協会
(高尾 桂会長) が、絵画を継続して町に寄贈してきましたが、同会の依頼で、今年の干支である午の絵を作成しました。老人クラブでの絵手紙講習会で、高尾会長と出会い、水墨画を知り、描き始めたのが80歳。以来、月2回の趣墨会の活動を



町に墨絵を寄贈した 北海道趣墨会洞爺湖支部長

小杉 徳芳さん (87歳・入4区)

行いながら、30点以上の作品を描きあげてきました。

道東の白糠町生まれ。郵便局に勤務し、札幌の新琴似一条郵便局長を退職した後、豊浦町の教員をしていた子供の勧めもあって旧虻田町に移住。

それまで全く筆を持ったことがなかったが、老人クラブの活動を通して、絵手紙、墨絵と描くことの楽しさを知りました。

水墨画は特に「いったん筆を下ろすとやり直しがきかないし、世界が基本的に白と黒しかない」ので難しい。そこがおもしろい」と魅力を語ります。

地域の老人クラブの会長、週2回の卓球サークルでの活動と元気一杯。

これからも「若い人に墨絵を広げていきたいし、自分も元気なうちはずっと描いていきたい」と話します。

金比羅 火口付近

100度の地熱水発見 地熱発電事業の成功へ

洞 爺湖温泉利用協同組合(若狭洋市代表理事)は1月16日、地熱資源調査掘削工事を行った結果、揚湯試験で約100度の地熱水がくみ上がっていることを、開催した見学会で関係者に明らかにしました。

昨年の10月7日から、有珠山の金比羅火口近くの町有地で、

経済産業省、独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構(JOGMEC)からの交付金を受けて、地下約1、430メートルまで調査掘削を行ってきました。

くみ上げ試験では、298メートル地点から約100度の地熱水が毎分250リットル湧出し、

地下850

メートルでは、更に高温の130度を確認しました。

概要を説明した道立総合研究機構地質研究



くみ上げられた100度の地熱水

所資源環境部の高橋徹哉研究主幹は「いままでは四十三山周辺から井戸を掘ってきて、金比羅火口近くは初めての調査。予想以上の成果があった。この地域での高温の温泉資源の発見は、資源の衰退化の中で、今後に向けて意義深い」と話します。

若狭代表理事は「宝の山を得ることができた。なんとか事業の成功に結びつけたい。二次利用についても考えていきたい」と喜びを語り、真屋町長は「ジオの恵みとして、この資源を大切に守っていきたい」と話しました。

広 告